

【きらり・かねやま お宝マップ & お宝集について】

きらり・かねやま協議会では、金山の「きらり（宝物）」を探し出し、その価値を再認識し、守り、発展させるとともに、それを核とした地域づくりに役立てようと文部科学省との実践的共同研究「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」により事業を進めてきました。そのなかで金山の「きらり」はざっと130個ほど探し出されましたが、その中でも地域性や注目度などを考慮し30に絞り、今回お宝集としてまとめたものです。

このお宝集が町民の皆様から金山の「きらり」としてあらためて認識していただき、また町外からおいでくださる皆様もこれらを活用していただき金山を知る上でご参考にしていただけたらと存じます。

もちろん金山の「きらり」はこれだけでなく、今回お宝集に載せることができなかったもの、また探し出せなかったものももっとたくさんあるはずです。今後は新たな金山の「きらり」を見つけ、これに続くお宝集を作っていければと思います。

平成23年3月

きらり・かねやま協議会 代表 樋口 勝也

目 次

| | |
|-------------------------------|----|
| きらり・かねやま お宝マップ & お宝集について..... | 1 |
| きらり・かねやま お宝マップ..... | 3 |
| きらり・かねやま お宝集 | |
| 1. 大 堰..... | 8 |
| 2. 万宝院長屋門..... | 8 |
| 3. 蔵史館..... | 9 |
| 4. 交流サロン ポスト..... | 9 |
| 5. きごころ橋..... | 10 |
| 6. 西田羽長坊..... | 10 |
| 7. イザベラ・バード..... | 11 |
| 8. 金山まつり..... | 11 |
| 9. 山の神勧進..... | 12 |
| 10. W A G E スターズ！..... | 12 |
| 11. 町宣志 ホレクルラン..... | 13 |
| 12. 大美輪の杉..... | 13 |
| 13. 神室山..... | 14 |
| 14. 竜馬山..... | 14 |
| 15. グリーンバレー神室..... | 15 |
| 16. カムロファーム..... | 15 |
| 17. 風の丘公園..... | 16 |
| 18. 遊学の森..... | 16 |
| 19. 稲沢番楽..... | 17 |
| 20. 高堂山..... | 17 |
| 21. 主寝坂峠..... | 18 |
| 22. 共生のむら すぎさわ..... | 18 |
| 23. ふるさと壁画..... | 19 |
| 24. 岩円地藏..... | 19 |
| 25. 安沢歌舞伎..... | 20 |
| 26. 道草ぶんこう..... | 20 |
| 27. 谷口銀山..... | 21 |
| 28. 四季の学校・谷口..... | 21 |
| 29. 金山町教育文化資料館..... | 22 |
| 30. 漆野インゲン..... | 22 |
| きらり・かねやま お宝集 補足資料..... | 23 |

きらり・かねやまお宝マップ

金山地区



金山まつり



西田羽長坊



町宣志
ホレクルラン



WAGE スターズ!



きごころ橋



山の神勸進
(内町・山崎・明安)



イザベラ・バード



交流サロン
「ほすと」



万宝院長屋門



大堰



蔵史館

有屋地区



カムロファーム



グリーンバレー
カムロ



遊学の森



竜馬山



稲沢番楽



大美輪の杉



風の丘公園



神室山

きらり・かねやまお宝マップ

中田地区



ふるさと壁画



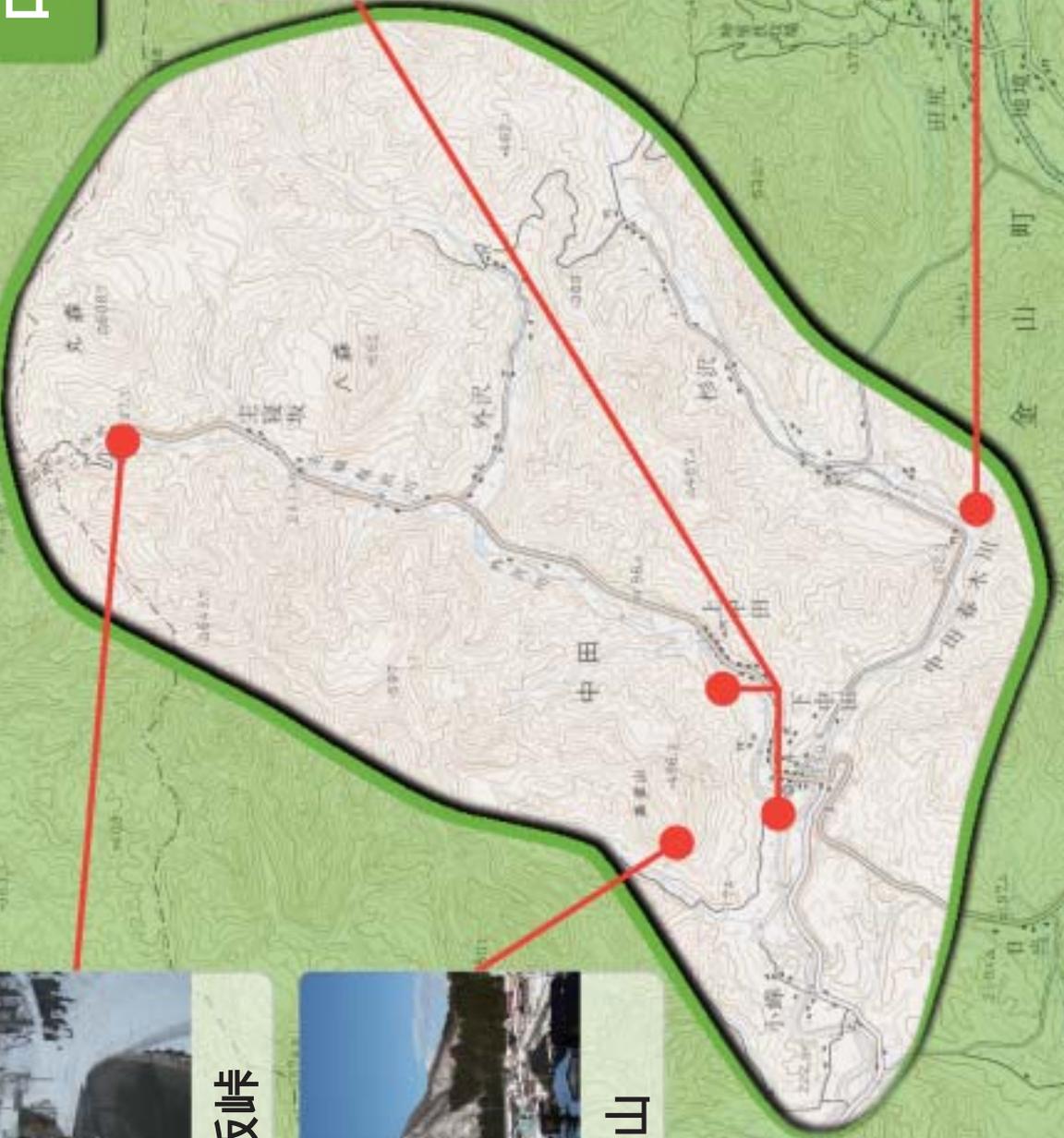
共生のむら すぎさわ



主寝坂峠



高堂山





安沢歌舞伎

きらり・かねやまお宝マップ

東郷地区



道草ぶんこう



岩円地藏

きらり・かねやまお宝マップ

西郷地区



漆野インゼン



金山町
教育文化資料館



谷口銀山



四季の学校・谷口

【大 堰】



おおぜき

金山川から取水している農業用水路。この用水路は、昭和52年から昭和58年までの7年間をかけて造られたが、特徴は当時としては珍しく底と側面が雑割石でできており、底面には穴あきブロックを使い、水を地下に浸透させて還元していることである。

昭和50年代はまだ「効率」が優先し、国からはコンクリート造りを求められたが、金山町の家並みに調和させるため苦勞しながら認めてもらったというエピソードがある。

この大堰には、昭和56年から錦鯉が放流され、5月の連休前に保育園や幼稚園の園児たちによって約250尾の錦鯉が放流される風景は、春の風物詩となっている。

平成15年度「次代につなぐやまがた景観賞」受賞、平成17年度「疎水百選」選定。

【万宝院長屋門】



まんぼういんながやもん

この長屋門は元和8(1622)年に山形を治めていた最上氏改易に伴って、楯山に金山城が築城されていた際の大手門を移築したもので、昭和の大火災にも延焼を免れ今日に至っている。

長屋門とは、武家屋敷門として江戸時代に多く建設された。多くの大名は、自分の屋敷の周囲に、家臣などのための長屋を建て住まわせていたが、その一部に門を開いて、一棟とした物が長屋門の始まりである。

町に残る建築物としては、最も古いものの一つであり、所有者の方も屋根の葺き替えをするなど、大切に管理している。

【蔵史館】



くらしかん

個人所有の米蔵を町が譲り受けて整備した建物。平成5年度から3ヵ年事業で、周辺整備も含めて約1億5千万円で整備した。

俗に「前蔵」と言われる道路沿いの建物は、現在「商工会館」として使用しており、「後蔵」を街並みづくりのシンボルとして「金山町街並みづくり資料館（愛称＝蔵史館）」と名づけている。各種の交流会、愛好家による写真展、絵画展、雛祭りなども開催している。

街並み散策をする人が増えたことから、休日も開館して自由に見られるようにしたところ、商工会女性部を始めとした「蔵の会」なる組織ができ、蔵史館を訪れる方に毎日曜日に湯茶の接待をしている。

また、「町の中の小さな蔵」として「手づくり郷土賞」を受けている。

【交流サロン ぽすと】



こうりゅうさろん ぽすと

昭和11年、地域特定郵便局として建てられ、新郵便局ができる昭和53年までの43年間利用されていたが、その後は隣に住む所有者の倉庫として使われていた。建物としては大きな改変もなく、ほぼ新築時の状態で残されており、各地で郵便局の建て替えが進んだ現在では貴重な遺構となっていたが、老朽化が進み現状での維持管理が困難になってきたことから、平成12年町が譲り受け改修整備した。

憩いの場・創造の場であり、親しみやすく覚えやすいことから「交流サロンぽすと」通称《ぽすと》となった。

1階部分は、誰でも自由に利用できる交流と憩いの場であり、2階は女性を中心としたグループが新しいまちづくりや地域づくりのための活動を行う拠点として創造の場となっている。

【イザベラ・バード】



いざべら・ばーど

イギリスの女性旅行家(1831～1904)。日本の奥地の調査のため日光から会津をまわり、新潟を経て宇津峠を越えて山形県へ入り、赤湯から羽州街道沿いに北上して明治11(1878)年7月16日に金山へ着いた。上台峠をこえて金山の盆地を展望したバードは、その印象を次のように記している。

「今朝、新庄を出てから、険しい尾根を越えて、非常に美しい風変わりな盆地に入った。ピラミッド形の丘陵が半円を描いており、その山頂までピラミッド形の杉の林で覆われ、北方へ向う通行をすべて阻止しているようにも見えるので、益々奇異の感を与えた。その麓に金山の町がある。ロマンチックな雰囲気のある場所である。私は正午にはもうついたのであるが、1日か2日ここに滞在しようと思う。駅亭にある私の部屋は楽しく心地よいし、駅係はととても親切であるし、しかも非常に困難な地域が前途に横たわっているからである…」

またこの言葉を記したイザベラ・バードの記念碑を大堰公園内に設置している。

【金山まつり】



かねやままつり

元は八幡神社の祭礼として、8月15日に行われる氏子の人々による神輿行列が始まりといわれている。神輿行列が終わると人形山車が各町内(十日町、七日町、内町、羽場、山崎)から繰り出し、歌舞伎の名場面や歴史に題材をとり、時には郷土史を題材として趣向を凝らすなどの工夫がされている。

賑やかなお囃子は、新庄の山屋や、小泉などの若連から依頼しているが、最近では中田や安沢など自前の囃子を養成する町内も増えてきた。

現在のような山車になったのは昭和初めころからで、人形も新庄市の野川陽山氏から協力を得ており、新庄祭の山車にも劣らない美しさである。

翌日の16日には納涼花火大会が金山川河川敷で行われる。

【山の神勸進】



やまのがみかんじん

地域の中学3年生までの男子が、山の神の御神体を持ち各家々を回り、五穀豊穡や交通安全、身体堅固を祈る子どもたち独自の行事。

この行事は、いつ頃から始まったかは定かではないが、豊作を願って冬の山の神様が田に降りて田の神様になる節目の時期（4月2日頃）に行われている。最上郡内の十数か所で同じような行事があるが、金山町では現在は内町地区と山崎地区、明安地区でそれぞれ行われている。

「山の神の勸進勸進、三升五合計れっちょ計れっちょ（山崎地区）」と振れ巡り、玄関から入り敷台の前で再度唱和を行い、寄進が終わるまで掛け声を続け、本尊を背負った最年長の大將がその山の神を廻った家の人の前に向け拝礼をしていただき、寄進を受ける。掛け声や内容に関しては各地で若干違う。寄進は、以前は米等であったが現在は現金が中心。それを大將が自分の裁量でみんなに配分する。

【WAGE ☆スターズ!】



わけすたーず!

平成14年11月結成。若い人が少ない金山で、何かをやろうと町内の若者が参加しているボランティア団体。

「WAGE ☆スターズ!」とは、金山弁で「若い人たち」という意味をもじったもの。主な活動内容は、道路のゴミ拾い、高齢者世帯の雪下ろし、デリバリーサンタ、浴衣でビアパーティなど、ボランティアにとらわれることなく幅広いイベントの企画・実践を行っている。毎月中央公民館で定例会を行い、活動について打合せを行っている。

【町宣志 ホレクルヲン】



ちょうせんし ほれくるをん

十日町地区の若者を中心とした、金山町の宣伝を志すご当地ヒーロー戦隊。町の衰退を狙う「ヘクサンポー帝国」からアクティブート（活性化）を合言葉に力を結集し倒すねらい。平成19年に「十レンジャー」として発足したが、平成21年より現在の「町宣志ホレクルヲン」に改めた。

金山町民の情熱を表すレッド、金山川の清き流れに負けない強い意思を表すブルー、金山大工の匠の技を表すイエロー、金山の特産のニラを表すグリーン、金山の米の粉豚を表すピンクの5人で構成されている。

町内のイベント等に現れる。「ホレクルヲン」は金山弁で「そうくるか」の意味からきている。

【大美輪の杉】



おみのわのすぎ

秋田杉と並ぶ銘木と自負している長伐期大径木の金山杉。かつて1町歩1万石という人工林としては世界一の蓄積を持つ山林であったが、昭和36年に伐採されている。現在、これに次ぐ山林の一つとなっているのが「大美輪の杉」である。樹齢は約280年と言われており、面積、蓄積などについては以下のとおりである。

※平成3年6月最上地方事務所調査

- ・面積 0.87ha
- ・本数 115本
- ・材積 1973.48m³
(7099石 1ha換算2268.37m³)
- ・平均直径 106cm (最高152cm)
- ・平均樹高 49m (最高59m)

【神室山】



かむろさん

金山町の東方、奥羽山脈の上にひとときわ高く突起したピラミッド形の山で、標高1365m。「神室」とは神霊のやどる岩室の意味で、頂上近くには雷神・水神・太田神など農耕の神をまつり、鉄製の剣や鳥居が奉納されている。麓の人々は山肌に残る雪の形を農作業の目安とし、いまも信仰登山者が多い。鎌倉から室町にかけて修験道の一派大峯当山派の霊場とされ、紀州熊野との往来があり、有屋の熊野神社などは直接勧請されたものであろう。全国各地からの参詣者が多かつたらしく、宿坊あとの名や、神室山に関する言い伝えが根強く残っている。登山口は有屋口、小国口、仙台口、役内口など八方八口があり、近世初期まで、秋田県雄勝地方との連絡は、鉤掛森・桧木森・黒森との鞍部を通る有屋峠越えによっていた。

ブナの実林などの植生にめぐまれ、全国的にも珍しいブナやカツラの巨木がある。また山麓には神室ダムもあり雄大な景観が楽しめる。

【竜馬山】



りゅうばさん

金山川の西岸、大字有屋の宮地区にあり、標高521m、地質は竜馬山岩類で、海底火山が噴出してできた自破砕性溶岩からなり、頂上は柱状節理の険しい断崖で容易に人を近づけない。

昔から竜馬をみたという記録が残り、巖の中に不動明王のお姿が現れたとも伝えられている。神室山とともに信仰のお山で、鮭延越前守や新庄藩主戸沢氏から深く敬われていた。戸沢氏は「日本第一竜馬山」と称し、毎年旧暦6月28日の祭には藩主の代参がたてられた。今も祭の日には、白衣の信者が早朝登山し、12箇所の拝所を順拝している。

山麓には宝暦12年(1762)の棟札をもつ不動明王の社があり、川向いに「お前仏」という竜馬山の遥拝所がある。

【グリーンバレー神室】



ぐりーんばれーかむろ

平成元年にオープンした、神室山の麓に広がるレクリエーションエリア。夏はキャンプやテニス、ブナ林での森林浴、昆虫園でのカブトムシ観察、冬はスキー、スノーボードが楽しめる。

また、平成10年7月には滞在型ホテル「シェーネスハイム金山」がオープンし、隣接の金山杉を使った温泉施設「ホットハウスカムロ」やレストラン「フォレスト」とあわせてくつろぐことができる。レストランでは、夏期に「森の演奏会」と称し食事をしながら音楽を楽しめる。

【カムロファーム】



かむろふぁーむ

(財)岸農山育成会が、満州と言われた中国北東部への開拓に向かう地元青年達に農業訓練の場を与えようと、7万平方メートルの山林を切り開きカムロ農場をつくった。倶楽部の西側の建物「日輪舎」は、当時教室権寄宿舎として使われていた建物。戦後は農場で葉たばこなどが栽培され、日輪舎は作業小屋として用いられた。

平成11年4月、訪れる人々がひと時の安らぎを得ることができる空間「カムロファーム」として生まれ変わり、自然と触れ合えるレクリエーション機能をもった施設となった。約25,000坪の敷地には、世界最小の馬「ファラベラ」が遊ぶミニ牧場や倶楽部ハウスがあり、日輪舎はイベント会場や体験農業の場として用いられている。倶楽部ハウスでは、平成20年春にイタリアンレストランがオープンし、食事やお茶を楽しめる。

【風の丘公園】



かぜのおかこうえん

グリーンバレー神室の上流から金山川に注ぎ込む、大清水川の河川敷に、平成 17 年 8 月に完成した公園。地域住民の「美しい自然を保全したい」という気持ちが結集した公園で、夏にはゲンジボタルも飛び交う。

平成 22 年 11 月に有屋地域の新たな地域づくりの拠点として彫刻のモニュメントを設置。東北芸術工科大学卒業生の作品を設置し、この作品を通して有屋小学校の児童たちと一緒にワークショップを開催するなどした。子どもたちや地域住民にとっても新たなシンボルとして地域の活性化の一端を担う存在であり期待されるところが大きい。

【遊学の森】



ゆうがくのもり

県内 4 番目の県民の森として、最上地域の豊かな自然資源や地域文化を活用しながら、「森と人とは共生できるモデル地域の創造」を基本理念とし、平成 14 年に完成。同年 6 月に行われた第 53 回全国植樹祭の会場となった。

平成 15 年には木もれび館が完成し、自然体験、木工クラフト、森林体験、食の体験など一年を通して様々なプログラムを用意している。近年は、毎年秋に東日本チェンソーアート大会が開催されており、迫力十分なパフォーマンスに大変にぎわっている。

【稲沢番楽】



いなざわばんがく

金山町有屋地内に伝承されてきた民族舞踊。言い伝えでは神室山の山伏が里におりて舞ったものと、秋田県矢島から伝来したものと合流して一つになったもので600年の伝統を持つと言われている。番楽のできない人には嫁が来ないとまで言われ、村の若衆は寸暇をさいて稽古に励んでいた。演じられる演目は、表7番・裏6番合わせて13番といわれ、戦前は旧暦8月25日、熊野神社祭礼の頭屋で演じられ、その夜は一晩中舞明かされた。

しかし、昭和30年代後半から地区の変貌により番楽の伝承者が激減した。そこで昭和39年に「稲沢番楽保存会」を結成、また昭和59年には「有屋少年番楽」を結成し、子供たちへの温故知新の心を育み、郷土愛を育てながら、健全な育成に寄与することを願い、保存会のメンバーが指導に当たっている。山形県の重要無形文化財に指定されている。

【高堂山】



たかどうやま

標高496m。中田を象徴する山として、本郷（上・下中田）のまん前にそびえ、その中腹に中世の楯跡があると伝えられてきた。伝説によれば戦国の頃、栗田備中守という楯主がおり中田地区を治めていたといわれている。楯跡には「金の水屋ふね（水槽）」が埋まっていると言われているが、これは、山城の水の重要性を言い表した話ではないかと思われる。

【主寝坂峠】



しゅねざかとうげ

金山町と真室川町の間にある峠。標高410m。

久保田藩初代藩主佐竹義宣によって整備されて以来、羽州街道の一部として、羽州各藩の参勤交代の道としても使われていた。名は峠の金山町側にあった主寝坂地区に由来する。この地に伝わる伝説では、江戸時代初頭に、戦を逃れた矢島藩（現在の秋田県由利本荘市、旧由利郡矢島町）の姫君とその従者が恋仲になり、雷雨に見舞われてたどり着いた峠の頂上近くにあった、朴の木のそばにある洞穴で関係を持ったという。このことを唄った里唄も伝承されている。また、峠の真室川町側を流れている塩根川の転訛に由来するという説もある。

従来、秋田県との往来は国道13号線が通るこの主寝坂峠を通らなければならず、道が曲がりくねりトンネルもせまく非常に通りにくかった。現在は、新主寝坂トンネルが開通し、秋田県との往来の利便性は大幅に増した。

【共生のむら すぎさわ】



きょうせいのむら すぎさわ

杉沢地区では、集落の全世帯が参加するゆるやかな調整組織「共生のむらすぎさわ」と称して、地域ぐるみでグリーン・ツーリズムに熱心に取り組んでいる。拠点施設「暮らし考房」では、民泊の受け入れや、森づくり、森あそび、川あそびによる環境教育、地域学習などを通じて山村の豊かさを発信している。

また、古くからの地域資源であるカエデの樹液を利用した商品として、メープルビールなどの商品開発も進み、「メープルの里」づくりにつながっている。

杉沢の生活に共感を覚えた都市住民との共同でむらの空き家を買取り、「金山スロー村」と名づけ、より深く山村の暮らしを実践できる交流の場として活用している。

平成19年度に「立ち上がる農山漁村」選定、「オーライ！ニッポン大賞」の審査員長賞を受賞している。

【ふるさと壁画】



ふるさとへきが

国道 13 号主寝坂道路の開通に伴い、中田地域の景観や住民の生活様式も大きく変化していくことから、典型的な中山間地域である中田地域のふるさと風景や思い出、さらには四季折々の伝統行事等を中田小学校の児童が壁画を制作し、地域住民の心のよりどころとなるように後世に伝えていく目的で、平成 21 年度から始まった。

国道 13 号主寝坂道路のボックスカルバート内に壁画を描く事業で、平成 21 年度は東北芸術工科大学に協力してもらい下中田地域内に、平成 22 年度は山形大学に協力してもらい上中田地域内に、中田小学校の児童と共に完成させた。

この事業を通して児童や地域住民が一体となり、もう一度自分たちの地域を見つめなおし中田地域のよさを再発見できた。

【岩円地蔵】



いわえんじそう

片貝の岩円地蔵は、古くから早ばつの年に雨乞いの祈りがなされ、靈験あらたかであった。杉や檜などの古木が茂り、巨木の根のからみあった参道をのぼった処の自然の岩窟の中に祀られている。まことに心身のひきしまる環境をなしている。縄文土器が岩円内の表面に発見されるので、原始時代の居住あとも考えられる。

岩円は「岩屋」つまり岩の家を意味するところから名づけられた。

【安沢歌舞伎】



やすざわかぶき

安沢地区に伝承されてきた「安沢歌舞伎」は、江戸時代新庄藩主が地区の娯楽にと農民に教えたのが始まりと伝えられている。全盛は、明治末期から昭和初期にかけてであり、地区の若衆たちによる「東安座」という一座が結成された時期でもある。地区の祭礼では小屋掛けの舞台を張り、夜を徹して演じられたものであり、地区最大の娯楽の場、地区民の結集の場でもあった。

しかし、戦時中の中断や戦後の地域（農村）の変貌により、歌舞伎に代わる娯楽が豊富になったことや後継者の職を求めた流出が重なり、徐々に歌舞伎が演じられなくなり地区としての連帯感も薄れてきた。そこで、沈滞している若連活動の活性化と伝統文化の伝承による地域コミュニティの育成を図ろうと昭和63年に「安沢歌舞伎保存会」を結成。

近年は、「明安子ども歌舞伎伝承会」（明安小学校）の指導に力を入れながら、地域に根ざした保存活動や自主公演の開催に向けた取り組みを行っている。

【道草ぶんこう】



みちくさぶんこう

平成13年に田茂沢分校が閉校になったことで、彫刻家でもあり現金山町教育長の樋口勝也氏をご自身のアトリエと地域の文化活動の拠点として「道草ぶんこう」を開校。分校の卒業生を中心に町外者を含めた「道草ぶんこう運営委員会」を発足させ、人と人がつながる地域おこし、地域コミュニティによる地域再生運動を目指している。

平成20年にはみんなが集まりやすい気分になるようにと東北芸術工科大学と連携し、地元の子どもたちと校舎一面にカラフルな絵を描いた。他に道草ぶんこうを中心とした東郷地域の独自の検定問題づくりや、大学生などとの交流を進め、地域資源の発見と活用を目指し地域づくりに取り組んでいる。

【谷口銀山】



たにぐちぎんざん

「金山」という地名の語源となったとも考えられる谷口銀山は、義経ゆかりの金売吉次の発見と伝えられている。最上義光がこの地を支配した16世紀末には採掘され、新庄藩主戸沢政盛が入部してから本格的に開発され、全盛は寛永から慶安（1624 - 51）にかけての20余年とみられる。その後坑内に出水があり排水工事になやまされたが、全く閉山となったのは弘化2年（1845）のことという。

現地をみると、吉次山の岩窟は初期の旧鉱で純度の高い金銀を出したらしい。ずり山・伝助鋪・まさり鋪・十分一・買石沢など鉱山関係の地名が残る。越後からきた鉱山師碓屋与次兵衛の屋敷跡には茗荷が生えのこり、鉱石を砕いた石臼やたくさんの鉱滓が発見されている。

『村鑑』や『寿永軒見聞集』に、一見誇大とも受け取れる銀山全盛時代のありさまの記事があるが、相当の産銀があり、戸沢藩初期のドル箱であったことは事実であろう。

【四季の学校・谷口】



しきのがっこう・たにぐち

平成8年に金山小学校谷口分校が110年の歴史を閉じることになり、有志で結成した谷口分校運営委員会が「四季の学校・谷口」を平成9年に設立。分校を核とした農業・農村体験による都市との交流を図るための農村体験学校「四季の学校・谷口」と地元産物を活用した「谷口がっこそば」を開店。そばのおいしさも然ることながら、地元のお母さん方の接客も話題となり県内外からお客が連日来店している。

四季の学校は年4回開校し、毎回40人前後が参加している。平成17年にはNPO法人化、平成21年3月には「よみがえる廃校・全国サミット」を開催。平成15年には「豊かなむらづくり優良事例」として農林水産大臣賞、平成16年には内閣府の「立ち上がる農山漁村」全国30例に選ばれた。ほか多数受賞している。

【金山町教育文化資料館】



かねやままち きょういくぶんかしりょうかん

平成 13 年に朴山分校が閉校したことにと
もない、平成 18 年度、旧朴山分校の持つ歴
史的建造物を利用して、廃校となった各分校
や小・中学校にある古く貴重な学習機材や歴
史的教育資料の保管・展示を行う場として、
また町史研究や社会教育活動の場として金山
町教育文化資料館を開館。西郷地域住民を中
心に運営委員会を立ち上げ、旧朴山分校の活
用について積極的に話し合われている。

また同館には故宇佐美繁氏寄贈の文庫を設
置しており、農業農村研究関係者の資料館と
しても活用できるようになっている。

【漆野インゲン】



うるしのいんげん

かつて炭焼きが盛んに行われていた漆野地
区に、昭和 14（1939）年に炭の等級検査官
が村山地方から訪れたときに、荒木クニ子さ
ん宅に持ち込まれたのが始まり。さやまで食
べられるインゲンは村山地方にも現在はなく
（もともとあったという史実も現在のところ
ない）、荒木家だけで代々育てられてきた。

収穫は8月上旬で約2週間ほど乾かし甘煮
にしてさやごと食べる非常に珍しい品種。地
元では評判だったが、それを聞きつけた福島
市の料亭に荒木さんが請われて出荷を始めた
のは平成 8 年。19 年に最上伝承野菜 23 品目
の 1 つに認定。20 年には、新庄市の「佐藤
製館所」が甘煮を商品化し「漆野いんげん豆」
とし売り出した。21 年には「やまがたふる
さと食品コンクール」において最優秀賞に輝
く。

22 年には荒木さんだけだった栽培者も町
内の他地域を含む 10 人に増え、生産を増や
している注目の品種。

【補足資料】

| 区分 | きらり(宝物) | 説明 |
|------------|-----------------------------|--|
| 歴史 (有形) | 三本松(梁川播磨戦死の地)と 戊辰戦争戦死者の碑 | <ul style="list-style-type: none"> 戊辰戦争の金山での戦闘で仙台藩隊長・梁川播磨(やながわはりま)が三本松付近で戦死。 戊辰戦争で戦死した方の供養碑は近くの方が世話をしている。三本松壮樹会(羽場地区)が草刈り、雪囲い等をしている。 |
| | 仙台藩士の墓 | <ul style="list-style-type: none"> 戊辰戦争で戦死した仙台藩士の供養碑。奥羽越列藩同盟の盟主・仙台藩からの隊長・梁川播磨(やながわはりま)が兵500余を引きつれ慶応4(1868)年6月15日に金山に入った。森合峠での戦闘は7月11日で、梁川播磨は三本松付近で戦死。金山での仙台藩士の戦死者は33名。 |
| | 町内の石碑 | <ul style="list-style-type: none"> 町内には句碑や歌碑等かなりの数がある。句碑では西田羽長坊や岸寿兵衛、樋渡迷月など、歌碑では結城哀草果、田山花袋、佐竹義和などの碑がある。(敬称略) |
| | 西田羽長坊の碑(2基) | <ul style="list-style-type: none"> 金山出身の俳人。蕉風美濃派の流れをくむ江戸の神谷玄武坊の門下。森合峠のふもとに句碑がある。「ひとつずつ 折戸から来る 螢かな 七十六齡 羽長坊」。裏面には「昭和十九年建立 十三代西田芳松」とある。その反対側にも羽長坊の句碑がある。 |
| | 歴史の門(内町) | <ul style="list-style-type: none"> 宝円寺の旧山門で、金山城が取り壊された時に裏門を移築したものと伝えられている。山門の新築に伴い金小の一角に移築、保存することになったもの。 |
| | 万宝院長屋門(十日町) | <ul style="list-style-type: none"> 元和8(1622)年、最上氏改易に伴って金山城が取り壊された時、大手門をここに移築したものと伝えられている。現在、金山地方では最も古い建造物の一つ。 |
| | 日輪舎(カムロファーム内) | <ul style="list-style-type: none"> 昭和18年に満州に向かう青年に農業訓練を行うために、(財)岸農山育成会が開設した神室修練農場の教室兼寄宿舎として建てられた。「日輪」とは太陽の意。 |
| 歴史 (無形) | 有屋峠物語 | <ul style="list-style-type: none"> 新説「有屋峠」にまつわる物語。通説の有屋峠は入有屋から水島森と黒森の間を越えて薄久内・役内を経て院内に出ている。新説は、入有屋から鉤掛森、檜木森、黒森を越えて薄久内へ至るルートである。 |
| | 津田三蔵事件 | <ul style="list-style-type: none"> 明治24年5月11日、来日中のロシア皇太子が滋賀県大津に差し掛かった時、警備の巡查津田三蔵が人力車上の皇太子に切りつけ負傷させるという事件(大津事件)が起こった。金山村では事件から2日後の13日、緊急村会を招集して次のような村条例を決議、採択した。情報に対する意識の高さが現在の情報公開につながったといえる。 |
| | イザベラ・バード | <ul style="list-style-type: none"> 英国人女性旅行家。明治11(1878)年に日本を訪れ、7月16日に金山に入り、著書「日本奥地紀行」の中で金山を「ロマンチックな霧田気の場所」と記している。来訪100年を記念した記念碑が金山小の一角に建てられたが、現在は大堰公園に建っている。 |
| | 安沢歌舞伎 | <ul style="list-style-type: none"> 百数十年の歴史を持つ地芝居で、地区の若衆による東安座により演じられたが一次中断し、昭和61年に復活、今は「安沢歌舞伎保存会」が子どもたちに伝承している。 |
| | 谷口銀山 | <ul style="list-style-type: none"> 谷口銀山の鉱脈は源義経ゆかりの金売吉次の発見といわれる。吉次山の地名も残り、多くの掘り跡がみられる。最上義光時代も掘られたが、本格的に開発されるのは元和9(1622)年、新庄藩主戸沢政盛入部以来のことで、最盛期は寛永から慶安(1624~51)にかけてといわれる。 |
| | 稲沢番楽 | <ul style="list-style-type: none"> 神室山の山伏が里に降りてきた時に舞ったものと、秋田県矢島町から伝わった物が合流して稲沢番楽となり600年の伝統を持つといわれる。演目は表七番裏六番あわせて十三番あり、戦前は旧暦8月25日熊野神社の祭典のときに当番の家の座敷で一晩中舞い翌日に家々を回ったという。平成11年に金山町無形民俗文化財、平成14年5月17日には県の無形民俗文化財の指定を受けている。 |
| | 柳原番楽 | <ul style="list-style-type: none"> 番楽は有屋地区(稲沢・柳原)、中田地区で盛んに舞われたが、今は稲沢と柳原に残っている。 |
| 人 | 町民の人柄 | <ul style="list-style-type: none"> 町外の人たちにも気さくにあいさつする。 人なつっこい。 |
| | 人情 | <ul style="list-style-type: none"> 「おはようさん」、「お疲れさん」、「おばんです」いつでも、どこでも、誰にでも声をかける。 親しみやすさ、人なつっこさ、近所付き合い、困ったときのお隣さん。 |
| | 町の歌 | <ul style="list-style-type: none"> 歌詞・結城哀草果、作曲・大宮真琴で昭和32年2月に町の歌として制定され、以来町の行事等で歌われてきている。「とこみどり杉山四方にめぐらして光しずけき水清き町」。原歌は結城哀草果の昭和18年の作。 |
| | 方言 | <ul style="list-style-type: none"> いろいろな方言がある。「おばんです」「はいっとう」「んだ」「んめ」などなど。 |
| 特産物 | いがらもち | <ul style="list-style-type: none"> あんこもちの表面に黄色のもち米がまぶされている。稲花(いがら)餅。 |
| | ニラ | <ul style="list-style-type: none"> ニラの販売高は県内トップの産地。ニラを練りこんだニララーメン、ニラ餃子、ニラリズムカレーなどがある。 |
| | たたき料理 | <ul style="list-style-type: none"> ごぼう、ワラビ、ミズ、どじょうなどのたたき料理がある。ごぼうたたきは「畑のウナギ」ともいわれる。 |
| | 漆野インゲン | <ul style="list-style-type: none"> 漆野地区で栽培されている最上伝統野菜の一つ。緑色の時はサヤインゲンとして食べられるが、白っぽくなったさは乾燥させてそのまま煮て、さやごと食べることができる。伝統野菜は最上伝統野菜推進協議会で選定したもので平成22年10月現在29品目。 |
| | 吉田カブ | <ul style="list-style-type: none"> 凝山地区で栽培されている最上伝統野菜29品目の一つ。 |
| | メープルサップ | <ul style="list-style-type: none"> 杉沢の暮らし考房で作っているイタヤカエデの樹液100%。そのまま飲めるが、煮つめるとメープルシロップになる。 |
| | メープルビール「楓酔」 (ふうすい) | <ul style="list-style-type: none"> 暮らし考房で、イタヤカエデ(楓)からとった樹液とカラハナソウ(野生のホップ)を使って作られたビール。岩手県内の酒造会社に製造委託している。 |

【補足資料】

| 区分 | きらり(宝物) | 説明 |
|--------|---|---|
| 食べ物 | おいしい食べ物 | <ul style="list-style-type: none"> • どじょうたたき、ごぼうたたき、しそ巻き、ラーメン、そば、ニラカレー(ニラリズムカレー)、金山牛、金山豚などなど。 |
| | 山菜 | <ul style="list-style-type: none"> • 特に春の山からの恵みは最高! 遠くの親戚に毎年送っている方も。ワラビ、ゼンマイ、ウド、ミズ、アイコ、シドケ、コゴミ、フキ、タケノコ、ワサビ、ウレイ、たらの芽などなど。雪ウレイやたらの芽は栽培も行われている。 |
| 建 物 | 交流サロン「ぼすと」 | <ul style="list-style-type: none"> • 昭和 11 年、地域特定郵便局として建てられ、新郵便局ができる昭和 53 年までの 43 年間利用されてきたが、その後は、倉庫として使われていた。現状での維持管理が困難になってきたことから、平成 12 年町が譲り受け、改修整備した。 |
| | 蔵史館 | <ul style="list-style-type: none"> • 個人所有の米蔵を町が譲り受けて整備した建物。元々は明治時代に建築された米蔵であったが、町がもう 1 棟の蔵と一緒に譲り受け、平成 5 年度から 3 カ年事業で、周辺整備も含めて約 2 億 5 千万円で整備した。 • 俗に「前蔵」と言われる道路沿いの建物、延べ床面積 184.04㎡(約 55 坪)は、現在「商工会館」として使用しており、「後蔵」延べ床面積 166.12㎡(約 50 坪)を街並みづくりのシンボルとして「金山町街並みづくり資料館(愛称=蔵史館)」と名付けている。 |
| | まるい(岸家の屋号) | <ul style="list-style-type: none"> • 「やまに」「カネカ」と同様に京都の町家と似ていて、間口に比較し奥行きのある造りである。この家は、昔、醤油、味噌の醸造、販売をしていた。 • 明治 31 年建築の母屋とこれにつながっている現在の蔵の他に、現在の商工会事務所・蔵史館も以前はこの家の所有であり、金山町の昔からの落ち着いた家並みを保存するのに大いに貢献している。 |
| | カネカ(川崎家の屋号) | <ul style="list-style-type: none"> • 大正 7 年頃の建築で、母屋は奥行き約 14 間、幅 7 間、木造二階建て。全て杉と桂でできており、廊下は桂の一枚板を使用している。昭和、平成と一部改装、改造されているが、基本の構造材は建築当時の状態を維持している。積雪に耐えるため、要所要所に 7 寸、8 寸の柱材が用いられている。 • 正面の巨大な妻壁に表れた化粧小屋梁とその下に並ぶ戸毎のお繰り戸に加え、深い軒と棟に「からす(からすとまり)」がこの建物を造形的に優れたものにしてている。 |
| | やまに(星川家の屋号) | <ul style="list-style-type: none"> • 350 年前からこの地で旅籠を営み、15 代を数える。福島で奥州街道から分岐し、山形、秋田を経て青森に至る羽州街道の宿場であった金山にはかつていくつもの旅籠があったと言われる。 • 近年、旅館業はやめたが、往時の形で残っているのは、星川家(やまに)のみ。 • 金山型住宅の原型(切妻、白壁、下見板)とも言えるこの建物、明治 12 年建築。 |
| | 相撲大会 | <ul style="list-style-type: none"> • 8 月 18 日の羽場の祭りで行われる。白山神社奉納相撲大会。羽場地区の青年団主催で町内より子供が参加。各企業、商店の応援をいただいで実施されている。 |
| | 白山神社の相撲場 | <ul style="list-style-type: none"> • 羽場地区の大工さんが手がけた自慢の土俵。 |
| | 金山型住宅 | <ul style="list-style-type: none"> • 藁坊口を過ぎてすぐの 13 号線をはさんで両側の住宅地は、町外の人の評価が良い。 • 金山型住宅とは、切り妻型の屋根で色はこげ茶または黒に統一。外壁はしっくいやモルタル等の塗り壁(サイディング張りでない)とし、色は白または土壁仕上げの風景と調和する自然色とする。金山杉を使用して在来工法を用い、金山大工の手によって建築されたもの。新改築などで条例の形成基準に合致すると助成金を受けられる。 |
| | 金山町営住宅 | <ul style="list-style-type: none"> • 集合型と一戸建てがある。集合型は七日町に 3 棟、羽場に 2 棟。一戸建ては金山形住宅で羽場に 5 棟ある。 |
| | グリーンバレー神室 | <ul style="list-style-type: none"> • 滞在型ホテル「シェーネスハイム金山」を中心としたミニリゾートエリア。ホテルやレストラン「フォレスト」、温泉「ホットハウスカムロ」のほかにキャンプ場、テニスコート、グラウンドゴルフやターゲットバードゴルフのコース、夏ソリなどがある。冬場は神室スキー場もオープン。 |
| | シェーネスハイム金山 | <ul style="list-style-type: none"> • 平成 10 年 7 月に完成した滞在型ホテル。「シェーネスハイム」はドイツ語で「美しいわが家」の意味。JR 東日本と金山町で出資している。ツインルーム 19 室(うちコネクティングルーム 10 室)、ファミリールーム 8 室(うちメゾネットタイプ 2 室)あり、最大で 97 人泊まれる。温泉ホットハウスカムロとは回廊でつながっている。 |
| | キャンプ場 | <ul style="list-style-type: none"> • グリーンバレー神室にあるキャンプ場。16 のテントサイトと炊事場、水洗トイレを完備。テントや焼肉用鉄板などのキャンプ器具もレンタルしている。 |
| | 温泉 | <ul style="list-style-type: none"> • 神室温泉「ホットハウスカムロ」。4 年 10 月オープン。ナトリウム-硫酸塩・塩化物泉 低張性弱アルカリ性低温泉 |
| 神室スキー場 | <ul style="list-style-type: none"> • 平成 2 年 1 月オープン。リフトは 1 基で、グレンデは第 1 から第 3 まであり、迂回コースも。夜はナイターのカクテル光線がきれい。 | |
| きごころ橋 | <ul style="list-style-type: none"> • 金山杉をふんだんに使った屋根つきの木製歩道橋。平成 16 年に新設され、季節を問わず安全で快適な通行ができるよう、更には金山の自然と景観が調和する歩道橋とすることにより、金山杉と金山職人の技が見事に生かされ、公募で「きごころ橋」と命名。長さ 58.6 m、幅 3 m。四季折々に私達の目を楽しませてくれる。こいのぼり、七夕、光のページェント。 | |

【補足資料】

| 区分 | きらり（宝物） | 説明 |
|----------------|----------------------|---|
| 建物 | ダム | <ul style="list-style-type: none"> 金山には二つのダムあり。昭和40年完成の榎沢ダムは、農業用水用ダム。 平成5年完成の神室ダムは、総事業費約205億円。ダムの目的は、洪水調節、農地防災、不特定用水、河川維持用水、上水道用水の5つで、金山町と新庄市、真室川町の一部に上水道用水を供給している。 |
| | 朴山堰 | <ul style="list-style-type: none"> 灌漑水路だが、冬期は羽場地区の消雪用として朴山地区より分水してもらい使用。夏の草刈り、降雪前の川底掃除をしている。 |
| | めばえ幼稚園 | <ul style="list-style-type: none"> 昭和51年より金山町の幼児教育を進めてきている。学校法人金山学園。平成22年で35周年を迎えた。 幼保一元化により金山町保育園とともに閉園し、平成23年4月1日からは社会福祉法人による認定子ども園として新たにスタートする。 |
| | 教育文化資料館 | <ul style="list-style-type: none"> 平成13年3月に閉校した旧朴山分校を利活用。平成18年夏から教育文化資料館として開館。 |
| | 四季の学校 | <ul style="list-style-type: none"> 平成8年に金山小学校谷口分校が110年の歴史を閉じることとなり、「四季の学校・谷口運営委員会」が平成9年6月に設立され、旧谷口分校を活用して農業・農村体験による都市との交流を図るための農村体験学校「四季の学校・谷口」と「谷口がっこそば」を開店することに。四季の学校は、年4回開校し、毎回40名前後が参加している。平成17年には「四季の学校・谷口」がNPO法人の認証を受けている。 |
| | がっこそば | <ul style="list-style-type: none"> 旧谷口分校を使って地元のお母さん方が中心になってそばやを運営。原則土日の営業（平日は10人以上の予約制）ながら平成14年には1万人以上の来客に。そばうち体験も受け入れており、現在は、農家民宿（旅館業）の許可を取得し、宿泊客も受け入れている。 |
| | 道草ぶんこう | <ul style="list-style-type: none"> 平成13年3月に閉校した旧田茂沢分校。地域活動の拠点、彫刻制作のアトリエとして活用。道草ぶんこう運営委員会が運営している。 |
| | 三枝分校跡 | <ul style="list-style-type: none"> 分校があった所に現在は三枝公民館や大きな農村公園があり、三枝地区の活動の場所になっている。「三枝分校跡」の記念碑は阿部先生と地区有志で建立。 |
| イベント | ツールド・カムロ | <ul style="list-style-type: none"> 金山の若者たちが立ち上げた。皆んなで応援したい。オフロードバイクを通して自然を満喫するとともに交流を図ろうという大会。平成20年に始めて3回目の22年は54人がエントリーし、林道等の約100キロのコースを駆け抜けた。 |
| | チェンソーアート競技会 | <ul style="list-style-type: none"> 「東日本チェンソーアート競技会」。大小何台ものチェンソーを使って、丸太から作り上げた木彫作品を競う大会。平成22年で5回目。丸太からチェンソーで何ができるのかを、もっと多くの町民にみてほしい。 |
| | 森の演奏会 | <ul style="list-style-type: none"> ホテル「シェネスハイム金山」のレストランを会場に演奏会が開催される。フルートやピアノなどの生演奏に耳を傾けながら地域の食材をふんだんに使ったバイキングをお楽しみください。 |
| | 神室雪祭り | <ul style="list-style-type: none"> 神室スキー場で1月に開催。日中は、「ホレクルランショー」や雪中カルタ大会、抽選会、モトクロスバイクによるヒルクライム「スノーライド」もあり。夜は雪中花火大会も開催される。 |
| | 山の神勸進 （山崎・下野明・内町） | <ul style="list-style-type: none"> 春に山の神を田んぼに迎えて田の神として一年の豊作を祈る。中学生以下の男子が、一番大将と呼ばれる年長者の指揮の下、木製の御神像を持って、集落内の各家庭を回り、灯明や御神酒、白米、ミカン、菓子などの供え物を集め、山の神を祀る。4月2日に各戸を回っている。 |
| | 大又 山の神勸進 | <ul style="list-style-type: none"> 12月12日に子ども達（4歳～中1）が家内安全と商売繁盛を祈って各家々を回る。 |
| | 大又 八幡様獅子神楽 | <ul style="list-style-type: none"> 9月20日夜に地区の若衆（消防団員）で村中、家内安全と住民の健康を祈って各家々を回る。 |
| | 七日町・冬のはだかみこし | <ul style="list-style-type: none"> 七日町若連が中心となって、七日町のおさいどの時に実施。みこしをはだかみこし。 |
| | 夏祭り | <ul style="list-style-type: none"> 暑い夏の1日、各地域や子供会、施設などで行われる色々な夏のイベント。また8月15日を中心に金山町の最大の山車パレードなど！ |
| | 金山祭 | <ul style="list-style-type: none"> 8月15日、雅びやかな5つの地区の5台の山車やお神輿が町を彩る金山の夏祭り。16日には大花火大会を開催。ひとつの山車をつくるのに、若連中心にしてそれを完成する頼もしさ… |
| | きごころ橋 | <ul style="list-style-type: none"> 平成16年に新設された木製の歩道橋は、四季折々に私達の目を楽しませてくれる。地区の人たちが中心となっているこのほり、七夕、光のページェント。 |
| | フラワーコンクール | <ul style="list-style-type: none"> 6月、9月に区長・公民館長連絡協議会主催で審査し、11月3日の町公民館大会の席上で表彰。きれいな（花の）街づくりに一役買っている。 |
| | 公民館大会 | <ul style="list-style-type: none"> 7月に開催される地域公民館大会を踏まえて、11月3日に金山町公民館大会・生涯学習推進大会が開催される。町公民館大会は平成22年で53回を数える。 |
| | ボランティア | 羽場地区ボランティアグループ |
| 羽場地区の地域活動 | | <ul style="list-style-type: none"> 各団体ボランティアグループ。育成会、青年団、若妻会、婦人会、壮樹会、老人クラブがそれぞれ活動に奮起している。 |
| 町宣志ホレクルラン（十日町） | | <ul style="list-style-type: none"> 十日町若連がご当地ヒーローとして誕生させた。十日町まつりや神室夏まつり、産業まつりなどで活躍。名前のいわれは会話で使われる方言から。 |
| めがね堰を愛する会（十日町） | | <ul style="list-style-type: none"> 十日町の有志で「めがね堰」に鯉を放流し、管理している。 |
| 街並み案内人 | | <ul style="list-style-type: none"> 街並み案内のボランティア。22年度で30名ほど登録している。案内をお願いする場合は町産業課を通して要予約。 |

【補足資料】

| 区分 | きらり(宝物) | 説明 |
|--------------|---|---|
| ボランティア | 共生のむら すぎさわ | ・ 杉沢地区ぐるみでグリーン・ツーリズムに取り組んでいる。各種体験や民泊ができる。 |
| | WAGE スターズ! | ・ 町内の若者が中心となって作ったボランティアグループ。WAGE(ワゲ=若者)スターズ。 |
| 風景 | 初冬・初雪が降った日の町並 | ・ 山も町もすべて一面が白の世界。厳しい冬の前の心なごむ季節 |
| | 桜並木 | ・ 春爛漫。町内いたる所に桜の木、木、木。特に田屋の桜、丸伊家の桜、中でも圧倒されるのが、国道13号の交差点より中学校に向かっての眺め。 |
| | ホタル | ・ 南沢・内町・漆野地区など。梅雨の明けない蒸し暑い夜はうちわ片手に夕涼み。これから先、どこでも見られる様になるといいです。漆野地区では木彫りのホタルを掲げ「ホタルの里」という木柱を立てている。 |
| | 神室ダムに映った紅葉 | ・ 神室ダムに移った紅葉がきれい。神室ダムは重力式コンクリートダムで堤高：60.6m、堤頂長：257m。 |
| | 紅葉の頃の薬師山 | ・ 毎日少しずつ変わってゆく様子が素敵!薬師山頂上には薬師神社がある。 |
| | 若葉の神室山系 | ・ 長い厳しい冬が終わって春が来た。そして初夏に向かう。気持ちもうきうきします。 |
| | ぶなの森 | ・ ちょっと歩けば、いつでも森林浴が出来る町。とりわけ神室山の麓に広がるぶなの森「ふれあいの森」が一番のおすすめポイント。 |
| | 花 | ・ なぜ花なのか?それは他市町村から嫁に来た私には新鮮な驚きでした。玄関の前、裏の畑、道端、いろんなところに花がいっぱい。すごく楽しくなります。 |
| | 大美輪の杉 | ・ 町民の中にもまだ知らない人達がいる。有屋の宮地区の大美輪にある大杉の林。樹齢280年の美林約80a、100本以上。 ・ 平均直径106cm(最高152cm) ・ 平均樹高49m(最高59m)(平成3年山形県最上地方事務所調べ) |
| | 街並み | ・ 散策するに本通りのみならず、裏道に通ずる小路があり同じ道を通らずに出発点にもどれる。裏道も高品質舗装。内町にはモデル住宅も完成。 |
| | 田屋の大堤の桜 | ・ 「田屋の一本桜」と呼ばれ、かくれた名所で、写真家のなかで知られている。桜の咲いている時期は写真家や観光客が多く訪れる。 |
| | 児童公園(羽場) | ・ 遊具のある所とボール遊びのできる平地部分に分けて造られた。他地区からの子供も遊びに来て、よく利用されている。 |
| | 羽州街道 | ・ イザベラバードの通った道をワラジをはいてのツアーは…! |
| | 旧羽州街道(森合峠) | ・ 旧羽州街道の跡が残る。 |
| | 森合峠 | ・ 森合峠から望む町と宝円寺の景色や月山。秋田・佐竹義和公や田山花袋の歌碑がある。通称「歴史の道」。 |
| | 上台峠 | ・ 上台峠から望む鳥海山や、薬師山、中の森、熊鷹森の三山と街並みが見事。 |
| | 金山三山(三峰) | ・ 上台峠から望んで左(西)から、薬師山(437m)、中の森(415m)、熊鷹森(390m)の三山。 |
| | 大堰 | ・ 鯉の放されている農業用水。金山川(最上川の支川)から取水している農業用水路(総延長2,564m)。この用水路は、昭和52年から58年までの7年間をかけて農村総合整備モデル事業により造られたが、当時としては珍しく底と側面が雑割石でできており、底面には穴開きブロックを使い、水を地下に浸透させて還元している。昭和56年から錦鯉が放流されており、5月の連休前に園児たちによって約250尾の錦鯉が放流される風景は、春の風物詩となっている。なお、冬季は流雪溝となるため、近くの公園に移動している。 |
| | 大堰公園 | ・ 平成19年12月に完成。街並み景観の拠点・シンボルとして親しまれている大堰と金山小学校に囲まれたスペースを新たに整備したものの。公園の名称は、町民から募り親しみやすく最も数が多かった「大堰公園」となった。 |
| | めかね堰 | ・ 正式には「新田堰」。道路改修とともに堰も改修し、地元の「めかね堰を愛する会」が中心となって錦鯉を放流、管理し、景観づくりに取り組んでいる。 |
| | ポケットパーク | ・ 十日町の雄勝金山線脇のポケットパーク。平成4年度に流雪溝整備を行った際に整備。池と照明は行政が担当し、植栽や休み場等の施設整備、鯉の放流や維持管理は地域の人達で構成される「鯉を愛する会」の手によって行われている。 |
| カムロファーム | ・ 風景も料理もおしゃれ。約21000坪の敷地の中にクラブハウスや日輪舎と金山唯一のイタリアンレストラン「ラカスターニャ」もある。運営するカムロファーム倶楽部は平成19年8月にNPO法人の認証を受けている。 | |
| ミニホース「ファラベラ」 | ・ カムロファーム内の世界一小さい馬。原産国はアルゼンチン。 | |
| 河川敷活用の花壇と畑 | ・ 花壇は、年度初めは地区全体で整備し、日常的には老人クラブが世話。畑は壮樹会が整備し、収穫物は地区内の各団体に使用。 | |
| 神室山 | ・ 神室山(かむろさん)は秋田県湯沢市と山形県新庄市、金山町の県境・市境上にそびえる、神室連峰の主峰となる山。「日本二百名山」「花の百名山(ミネザクラ)」に選ばれている。標高1365m。鎌倉から室町時代にかけて修験道一派大峯当山派の霊場で、紀州の熊野とも往来があり全国から参詣者があったとみられる。 | |

【補足資料】

| 区分 | きらり(宝物) | 説明 |
|-----------|---|--|
| 風景 | 龍馬山 | <ul style="list-style-type: none"> 稲沢・宮地区の真向かい、金山川西岸に屹立する標高 521m の山。頂上は柱状節理の険しい断崖となっている。昔から竜馬を見たという記録が残り、60 年に一度姿を見せるといわれる。戸沢氏は「日本第一龍馬山」とあがめ毎年旧暦 6 月 28 日の祭日には藩主より使者がつかわされたという。神室山とともに信仰の山であった。 |
| | 谷口銀山 | <ul style="list-style-type: none"> 「金山」の地名の語源となったとも考えられる。源義経ゆかりの金売吉次の発見と伝えられる。谷口銀山の最盛期は戸沢藩初期、寛永から慶安時代 1624～1651 年頃とみられ、坑道が 66 箇所、毎日 7 頭の牛に 120 キロもの銀を積み、7ヶ月間一日も欠かさず城下に運ばれたとの記録もある。 |
| | 天皇休憩所 | <ul style="list-style-type: none"> 町内に 2 箇所(上台・中田)ある。明治の初期に明治天皇が東北・北海道を御巡幸された時に休憩をとったところ。金山には明治 14 年(1881)年 9 月 22 日に入り、休憩は中田村・栗田運平家と上台村・近岡孝四郎家で、お屋は岸三郎兵衛家であった。 |
| | 修験関係(大宝院等) | <ul style="list-style-type: none"> 古代中世の頃は修験の山として繁栄をほこった。1258 年に北条時頼が廻国のおり神室山に参り、そのあまりに腐敗墮落している有様を見て参詣を禁じ、以来にわかに衰えたとされる。江戸時代の修験所として東学院や万宝院、大宝院などがあり、伝承される坊も三香坊・倍林坊・浄土坊・桜坊・わら坊などがある。 |
| | 主寝坂峠 | <ul style="list-style-type: none"> 落城した仙北の姫君が、一人の従者に守られて最上へ落ち延びる時にこの峠にさしかかり、朴の大木の下で怪しい夢を結んだという伝説が残る。 主寝坂トンネルは昭和 31 年に工事が開始され、35 年に開通。平成 17 年には全長 2944 m の新主寝坂トンネルが開通した。 |
| | 遊学の森 | <ul style="list-style-type: none"> 山形県 4 番目の県民の森として整備された。平成 14 年 6 月の全国植樹祭の会場。豊かなスギ林とブナ林に囲まれた「遊学の森」は、四季の彩りが美しく、春の新緑、夏の昆虫採集、秋の山の幸、冬の雪遊びと一年を通して森で遊び、楽しむことができる。 |
| | 植樹祭 | <ul style="list-style-type: none"> 平成 14 年 6 月 2 日、第 53 回全国植樹祭が金山町の遊学の森を会場に、天皇、皇后両陛下を迎え、林業関係者ら約 1 万 2 千人が参加して開催された。 |
| | 町の木 | <ul style="list-style-type: none"> 全国植樹祭を記念して、平成 14 年 6 月 2 日制定。ぶな・金山杉・やまぼうし。 |
| | 情報公開 | <ul style="list-style-type: none"> 全国初の情報公開、「金山町公文書公開条例」を昭和 57 年 4 月 1 日に施行。国の情報公開「行政機関の保有する情報の公開に関する法律」は平成 11 年公布、平成 13 年 4 月 1 日施行。 |
| | 街並み景観条例 | <ul style="list-style-type: none"> 昭和 61 年 4 月から施行。街並み景観を公共財として考え、風土にあった景観や快適な空間をつくろうというもの。形成基準にあった住宅建築には最高 50 万円の助成金を交付している。 |
| | ハナカジカ | <ul style="list-style-type: none"> 平成 20 年に有屋小の児童が有屋大清水川で発見。絶滅危惧種。 |
| | 風の丘公園 | <ul style="list-style-type: none"> 有屋地域の大清水川の河川敷の公園。平成 17 年 8 月 21 日にオープン。夏はホタルも見られる。平成 22 年 11 月にはモニュメント(彫刻)を設置、地域の文化、活動の拠点となっている。 |
| | ふるさと壁画 | <ul style="list-style-type: none"> 中田小の児童の原画をもとに中田地区の自動車道のカルパートに山形大学の学生が描いた壁画。平成 21 年度は下中田地区、22 年度は上中田地区に描いた。 |
| | 産業まつり | <ul style="list-style-type: none"> 平成 22 年で第 31 回。金山の産業を一堂に集める。焼肉まつりは 800 食が完売する。 |
| | 蔵 | <ul style="list-style-type: none"> 平成 22 年のまちなみ資源の調査では町中心部で 49 の蔵がある。 |
| | サングサング | <ul style="list-style-type: none"> 《「ざんげざんげ」とも》月山・羽黒山などの霊山に参る行者などが唱える言葉。上台地区で 12 月 7 日に行っている。 |
| | 高堂山・登山(下中田) | <ul style="list-style-type: none"> 22 年 10 月 31 日 登山道整備(学校と地区民で) 第 1 ポイント 下中田地区 第 2 ポイント 小蟬地区、金山町内、真室川～新庄 第 3 ポイント 有屋地区 第 4 ポイント 上中田、中田小学校 |
| | 中田春木川(下中田) | <ul style="list-style-type: none"> 遊歩道(中田小学校旧グラウンドの下)が整備されている。 1. 新緑 2. 納涼 3. 紅葉 |
| | 山の神神社境内のモミの大木(荒屋) | <ul style="list-style-type: none"> 仙台の青葉城のモミの木に匹敵する大木。 |
| | 落合の化け石 | <ul style="list-style-type: none"> 神室ダムの堤体設置地点(通称・落合)に二つに割れた大きな石があった。昔、この石が美女に化けて通る人々をたぶらかしたが、あるとき武勇すぐれた侍がこれを見破り一刀のもとに切り捨てたところ、大きな石が二つに断ち割られていたという。現在は神室大橋を渡ったところに移転されている。 |
| 谷源寺の謎(稲沢) | <ul style="list-style-type: none"> 阿部氏の山林の中、墓石数個あり。寺の跡か? 地名の謎。 | |

【補足資料】

| 区 分 | きらり (宝物) | 説 明 |
|--------------------------------|---|--|
| 信 仰 神 社 寺院等 | 講 | • いろいろな講がある。契約講、お日待ち講、観音講など。 |
| | 各地区の神社・祠・碑 | • 町史の余録には 180 掲載。 |
| | 子安観音 (持越) | • 金山町の西南部、持越にある。昔から安産と子授けのご利益があらたかで、町内はもちろん郡内各地からの参詣者が多数あった。 |
| | 岩円地藏 | • 岩円は「岩屋」つまり岩の家を意味することから名づけられた。五穀豊穡・村内安全・子孫繁栄を祈って地藏様が、農民のいのちの水の豊かさを願って水神様が祀られている。干ばつの時はここに祈れば必ず「恵みの雨」をもたらすといわれてきた。 |
| | 地藏様・山の神 | • 山の神としての碑があり、下に地藏様を祀っている。 |
| | 円称寺 (欄間) (清涼山円称寺) | • もと谷口銀山にあって寛永 14(1637)年に開かれた。浄土真宗東本願寺派のお寺。谷口銀山から宝暦 11 (1761)年に十日町、明和 9 (1772)年には羽場 (現在地)に移転。本堂欄間には 24 孝の彫刻がされている。 |
| | 円称寺 (大いちょう) | • この大いちょうが散ると、初雪が降るといわれている、大きな立派ないちょう。 |
| | 宝円寺 (金秀山宝円寺) | • 宝円寺の創建は慶長 17 年 (1612)に楯山城主である丹与惣左衛門の 4 男独翁宗芸が開基となり、淵山見雄 (幽) が開山したのが始まりとされる。曹洞宗のお寺。 |
| | 白山神社 | • 通称“公園地”と呼ばれている。8 月 18 日に祭り。春から初夏にかけてさくらや山ユリが咲く。 |
| | 八幡様 (下野明) | • 祭神は「誉田別命 (ほんだわけのみこと)」。 |
| | 八幡神社 (下中田) | • 祭神は「誉田別命」。22 年 8 月 20 日に焼失。 |
| | 八幡様 (八幡神社) | • 十日町にある八幡神社。祭神は「誉田別命」。例祭日は 8 月 15 日で、金山まつりとして神輿渡御や山車の巡行が行われる。 |
| | 上台・熊野神社 | • 高台から上台地区を見守る。町内の熊野神社は紀州熊野からの勧請と伝えられている。 |
| | 朴山・雷神社 | • 祭神は大雷天神。ここの御神体は 60 年に 1 回のご開帳とされ、他の時に開くと落雷・洪水その他の神の怒りがあるといわれる。 |
| | 庚申様 | • 庚申信仰は江戸時代からの民間信仰。庚申塚とは「庚申様」を信仰する人々が供養のために建てた石塔や像を納めた堂のこと。 |
| | 地藏様 | • 地藏様の多くは村落の入口にまつられ、災厄が村内に入り込まないように守るとともに、子どもの安全と成長を見守ってくれる慈悲深い仏様である。 |
| | 竜馬山不動明王 | • 旧暦 6 月 28 日の祭礼当日は早朝のお山掛け。白装束に身を包み、未明の竜馬山の山腹にある 12 の拝所を巡拝している。昔からの慣わしを今に伝える。先達の心構えはとてはずばらしいことと思う。不動明王堂には宝暦 12(1762)年の棟札がある。 |
| | 地藏様の守り人 (稲沢) | • 毎月 24 日掃除し、その後念仏。夏と冬には地藏様の着替えも。蟻 1 匹、くもの巣 1 本ない清潔さが自慢。 |
| | 忠魂碑 (稲沢) | • 有屋郷中の人々が祈り願い、足で造り上げた碑である。総工費 468 円 35 銭 (現在ならいくらになるだろうか)。昭和 13 年 4 月 30 日建立・除幕式。有屋地域の戦死者 40 名と記す。 |
| | 開拓記念碑 (稲沢) | • 稲沢に 2 ヶ所あり、どちらも茅刈り場の開拓とある。忠魂碑の隣と柴田義美氏宅のそば。 |
| 銅像 (稲沢) | • 竜馬山の入り口の橋を渡ると左側の森の中、阿部重蔵氏(阿部四郎左衛門氏の父親)の銅像あり。 | |
| 千手観音堂及び境内 (荒屋) | • 心が洗われるような静寂さ。観音様は新庄地回り二十五番札所。 | |
| 千住観音堂の上に薬師堂、その上に三吉様石碑 (祠) (荒屋) | • 千手観音様、薬師様、三吉様も地区の方を見つめて守ってくれている。この山を通称三吉山と呼ぶ。見晴らしもよい。 | |